

令和 3 年 5 月 17 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00056

研究課題名(和文)『ブリハットカルパバーシャ』を中心とするジャйна教団の運営に関する総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of the Jaina Monasticism with Special Referenc to the Brhatkalpabhasa

研究代表者

河崎 豊 (Kawasaki, Yutaka)

東京大学・附属図書館・特任研究員

研究者番号：70362639

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題において以下の研究に従事した。白衣派ジャйна教聖典中、出家者の戒律を扱う「チエーヤスッタ」に対するプラークリット韻文釈『ブリハットカルパバーシャ』を、サンスクリット注釈を参照しながら読解し、学術的な翻訳を世界に先がけて作成することを試みた。『ブリハットカルパバーシャ』梵語注に現れる特異なサンスクリット語彙の研究を行なった。『ブリハットカルパバーシャ』に現れる出家者の規定から、修行階梯、葬礼、滞在場所に関する規定、出家者同士の争いに関する規定などについて個別に検討を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はパーサの多角的検討によって当該分野の研究の欠落を埋め一層進展させるものであり、その意義は以下の4点にまとめられる：(1) BKBhの解読研究を、他の諸パーサの類似記述や現代における教団運営の実際と比較し行なった。これは世界的に先駆をなす未開拓の研究であり、今後この方面の研究にとって基盤となる役割を果たす。(2) 出家教団運営の実際の体系的再構築という、新たな成果の創造へと導く。(3) 仏教・ジャйна教出家教団運営論比較研究という、新たな研究領域を生み出すための基盤を構築する。(4) 言語学や宗教学、人類学などの関連諸分野にも有意な資料を提供するという波及的な効果を与える。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we accomplished the following studies: (1) We studied the Brhatkalpabhasya (hereafter BKBh), a Prakrit commentary on the Kappa, one of the Cheyasuttas (Svetambara canonical texts on the monastic disciplines), with Sanskrit commentary on it, and made a scholarly translation of BKBh for the first time in the world. (2) We made a list of rare and peculiar Sanskrit words which appear in the Sanskrit commentary on BKBh. (3) We studies the various monastic codes found in the BKBh such as the ascetic ranks, funeral rites, places for their stay, disputes between Jain monks and nuns.

研究分野：インド学

キーワード：ジャйна教 出家教団 戒律 ジャйна教混淆梵語

## 1. 研究開始当初の背景

インド仏教と同様、世俗の生活を否定し厳格な戒律の下で出家者の教団を組織するジャイナ教は、古くから教団の運営方法や出家者の生活規則を示す文献を作成した。最古の資料は、白衣派ジャイナ教聖典中の「チェーヤスッタ」と総称される諸文献である。そのひとつ『カッパ』の研究、W.Schubring, *Das Kalpasūtra* (1905年)を嚆矢とする若干の研究者によるチェーヤスッタ研究は、教団運営の理念の把握を容易ならしめてきた。一方、チェーヤスッタはごく簡潔な罰則条文からなり、各条文が実際の多様な事例においていかに適用されたのかを知ることは難しい。仏教風に言えば、「戒経」のみから各戒の運用方法を窺おうとすることに等しい。

これに対し、いわば「経分別」の役割を担うのがバーサである。時代や地域などに応じ変化する諸事例に対し、ジャイナ教はチェーヤスッタの条文改変などはせず、拡大解釈や別規定の言外の読み込みなどで対応した。それらを集成した膨大な注釈文献群をバーサといい、出家教団の運営の実態を知るために不可欠の資料である。また、バーサは条文解釈に関連して医学や天文学、また葬礼、占術などの情報を含み、文化史的に貴重である。更にバーサは俗語を用いた韻文であり、言語学や韻律学の上でも重要な情報を提供する。しかし、バーサの分量や難解さもあってか、ジャイナ教戒律研究でバーサ文献群が本格的に活用されることは少なかった。

## 2. 研究の目的

そこで本研究は、仏教やヒンドゥー教の資料をも活用した多面的な比較研究への将来的な展開を見据えつつ、従来のチェーヤスッタ研究では必ずしも十分に活用されてこなかったバーサ文献を利用し、文献学的な見地からジャイナ教出家教団の運営の実際を解明に向けた先駆的研究を行なうことを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究は文献学的手法を専らとし、バーサと呼ばれる文献を主資料とする。なかんずく、チェーヤスッタのひとつ『カッパ』へのバーサ、別名『ブリハットカルパバーシャ』（以下 BKBh）は最古の成立と思しく、重要度が高い。BKBh は古くから批判的校訂本が公表され、2016年までに俗語複注・梵語複注の校訂本が出揃い、研究環境は他のバーサに比べ恵まれている。よって BKBh を諸注釈と共に研究することが当該研究の目的には適う。とはいえ BKBh のみでも 6490 詩節、梵語注を含めた刊本は全 6 巻 1712 頁あり、研究期間内で全てを検討することは、BKBh に対するまともな現代語訳すら存在しない現状、よほど雑な読み進め方を採用しない限り不可能に近い。そこで、

1. 今後のジャイナ教戒律研究におけるモデルケースたることを目指したパイロット的研究を、幾つかの課題を設定した上で進めつつ、
2. 将来的な全訳の公開を目指した BKBh と梵語注を第 1 詩節から厳密に読み進める研究会を定期的に開催する

という方針をとった。

## 4. 研究成果

以下、「3. 研究の方法」で述べた方針「1」「2」に即しそれぞれその成果を述べ、そこから漏れるものについては「3 その他」という項目を立てて報告する。なお、本来研究期間内に公表する筈だったが、Covid-19 による学会の中止・延期や出版の遅延のために未だ世に問われていない研究成果が含まれることを、予め断っておく。

### 1. 今後のジャイナ戒律研究におけるモデルケースたることを目指したパイロット的研究

これについては、以下のような研究をそれぞれ行なった。

#### 1.1 チェーヤスッタとバーサを一体のものと捉えた分析

先に述べた通り、チェーヤスッタは仏教風に言えば「戒経」であり、各条文が多彩な事例においていかに適用されたのかを知ることは難しい。よって、明らかに異なる成立年代であることは注意しつつも、「経分別」の役割を担うバーサを、チェーヤスッタと一体のものとみて個々の内容を記述する研究、要は境野黄洋『戒律研究』（1928）や平川彰『二百五十戒の研究』（1993-5）の如き成果が、現段階のジャイナ教研究では必要である。これによってジャイナ教の「戒経」の或る条文が、ジャイナ教の「経分別」でどう解釈・運用されたかという、戒律の解釈が展開していく歴史を、より明示し得ると考えるからである。

以上の意識から、そのモデルを示すべく、出家教団の運営過程で内部あるいは対外的に起こり得る諍いについてその「戒経」を記した『カッパ』1.35 と、それに対する注釈 BKBh2676-2731 詩

節と、更にクシェーマキールティのサンスクリット注を合わせて検討してその内容を分析する成果を発表した。『カッパ』1.35 においては①修行者が諍いを起こし、かつその諍いを鎮めないままである場合が想定されていたこと②諍いを鎮めていない修行者に対し、敬意を表すことから共同逗留に至る迄の、集団生活における一連の行動を他の修行者が行なう場合も拒絶する場合もあったこと③諍いを鎮めない者に三宝の遵奉はないこと④諍いを鎮めるべきであると考えられていたこと、を知ることができる。しかし、いかなる状況において諍いが生じ、またその諍いをいかに鎮めるべきか、といった点については不明なままである。それに対し BKBh は、①諍いという語の哲学的分析②諍いの起こる条件③諍いの弊害④諍いを起こした場合の滅罪儀礼⑤諍いを止めない修行者への対処⑥諍いをいかに止めるべきか⑦諍いを起こしても無罪となる例外、について詳細に述べることを示し、その一々の内容について分析した。(雑誌論文→「ジャイナ教における諍と滅諍」)

## 1.2 ジャイナ教混淆梵語の語彙研究

ジャイナ教徒が用いる梵語がしばしば規範的用法から逸脱し、通常の辞典に記載されない語彙を頻繁に用いる事実は、インド古典研究のごく早い段階から認識されていた。しかし、仏教混淆梵語 (Buddhist Hybrid Sanskrit) に関する幾多の研究が蓄積されてきたことに比べると、ジャイナ教徒の特異な梵語の研究は貧弱であり、特に辞典の不備は深刻である。そしてジャイナ教混淆梵語辞典を編む機運はない。そもそも膨大なジャイナ教文献の殆どはこの種の作業に関し手付かずであり、語彙収集及び検討という基礎作業は残されたままである。そこでこの状況を改善するため、BKBh のマラヤギリ及びクシェーマキールティ注から通常のサンスクリット辞典に記載されないか、もしくは土着辞典にのみ用例が確認されるサンスクリット語を任意に収集してその意味を確定し、その成果を公表した (→雑誌論文 “Rare Sanskrit Words from the Sanskrit Commentary on the Bṛhatkalpabhāṣya”)

## 1.3 BKBh に出現する俗語の研究

ここでは、難語 *samuyāna* を取り上げた。注釈や現代の学者たちは当該語が「家から家への托鉢」を意味することを認めているが、この語がなぜそのような意味を持つのか、その語源は何かについてはあまり研究されていない。研究代表者は、初めて *samuyāna* の意味と語源を説明した A.F.R.Hoernle の説が誤りであること、第二にパーリ語の仏典で十二頭陀行のひとつとされる *sapadāna* が *samuyāna* と全く同一のコンセプトであること、最後に両語が梵語 *sāvadāna* に遡る可能性があることを発見した。以上は、2021 年 1 月に開催される筈の World Sanskrit Conference で発表する予定だったが、学会延期により公表はされず、また本報告の執筆時点 (2021 年 5 月 16 日) でも開催の目途がたっておらず、場合によっては他で発表する可能性がある。

## 1.4 BKBh 以外のジャイナ教文献との内容比較・分析

これについては以下のような研究をそれぞれ行なった：

1.4.1 『カッパ』6.12 は 6 種の「規定に留まること」と称する修行階梯を提示する。これに対し BKBh は 140 詩節以上を費やして解説する。その中から、BKBh6364 が示す 10 種の法数を取り上げてその内容を紹介した。次にこの詩節が他の白衣派のバーサ、ハリバドラ著作、空衣派の聖典に平行詩節があることを指摘した。更に白衣派と空衣派とでは、10 種の法数の冒頭に掲げられる「無衣」について異なる解釈をしていることを指摘した。即ち前者は「無衣」を無執着の同義語と解釈する一方、白衣派は襤褸を纏っていても「無衣」と見做すと主張する (→雑誌論文「Bṛhatkalpabhāṣya 6364 の予備的研究」)。

1.4.2 滞り場所で死亡した修行者への対処を示す『カッパ』4.24 に対する BKBh が、空衣派聖典『バガヴァティー・アーラーダナー』や白衣派の『アーヴァッサヤ・ニジュッティ』と平行関係にあることを指摘し、異同等を含めた内容分析を行なった。なお当該の成果は口頭で発表した他、『ブラフマニズムとヒンドウイズム (仮)』(法蔵館、未刊) に掲載予定であり、原稿は提出済であるので、将来はそちらを参照されたい。

1.4.3 総じて仏教諸律が具足戒を授けてはならない者の詳細なリストを提示するのに対し、チェーヤスッタの中で出家を禁じる者に関する議論はかなり貧弱であること、BKBh にも詳細な記載はないこと、詳細な禁止者リストは『ニシーハ・バーサ』で初めて現れることを指摘した上で、このようなチェーヤスッタ・バーサ群の伝統とは別に、出家の適性をめぐって議論を展開する文献にハリバドラ (6 世紀?) 作『パンチャヴァットウガ』があることを示して、その内容を検討した (→雑誌論文「誰が出家できるのか?」)。

1.4.4 酒瓶のある場所での修行者の滞在を禁じる『カッパ』2.4 とそれに対する BKBh の内容分析と共に、白衣派聖典・諸注釈において飲酒あるいは酒がどのようなものとしてとらえられてきたかを網羅的に分析してその内容を国際学会で発表した (→学会発表 “Drinking Alcohol and Early Jainism: With special reference to the Svetambara Jaina scriptures”)

## 2. 将来的な全訳の公開を目指した BKBh と梵語注を読み進める研究会

初年度から、分担研究者の藤永伸，研究協力者の名和隆乾，藤本有美を中心に，更に関心のある研究者・大学院生を交えて2日間の研究会を年に10回程度開催した。但し最終年度は，Covid-19の蔓延によって参加者の仕事量が激増したこともあり，長期間の中断を余儀なくされた。しかし最終的には，おおむね1000詩節程のBKBh及び梵語注の翻訳を作成し得た。この成果については差し当たり，研究代表者である河崎のResearchmapで「試訳」として順次公開していくことを検討している。また研究会は研究期間終了後もZoomを利用して定期的に開催しており，引き続き研究成果を蓄積していく予定である。

## 3. その他

**3.1** 2018年9月にベンガルール大学名誉教授 Hampa Nagarajaiah 博士を招へいし，国際研究ワークショップを開催した。その際，研究協力者である藤本有美がパーサ文献を資料として，財産が必要となった修行者の規定について発表した（→国際研究集会“International Workshop on Jaina Studies: Aspects of Jaina Studies”）。

**3.2** 以上の研究成果をも盛り込み，ジャイナ教がどのような戒律と信仰生活を守っているかについて概説的な内容の報告を行なった（→学会発表および雑誌論文「ジャイナ教の信仰と生活」；学会発表「ジャイナ教はどのような宗教か」）。またBKBhとは直接関係しないものの，ジャイナ教と世俗生活との関わりを示す一資料として，9世紀の空衣派僧ジナセーナが著した『アーディプラーナ』に現れる「理想のクシャトリア・王のあり方」に関する議論を取り上げて，クシャトリアの本分たる武人としての在り方と，ジャイナ教のモットーたる不殺生はどのように折り合いがつけられるのか，という視点からその内容を分析した（→学会発表「ジャイナ教におけるクシャトリア観の一事例」）。これも『ブラフマニズムとヒンドゥイズム（仮）』（法蔵館，未刊）に掲載予定であり，原稿は提出済であるので，将来はそちらを参照されたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 河崎豊	4. 巻 26
2. 論文標題 ジャイナ教における諍と滅諍	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ジャイナ教研究	6. 最初と最後の頁 81-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎豊	4. 巻 26
2. 論文標題 Rare Sanskrit Words from the Sanskrit Commentary on the Brhatkalpabhasya	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ジャイナ教研究	6. 最初と最後の頁 61-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎豊	4. 巻 42
2. 論文標題 ジャイナ教の信仰と生活	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代と親鸞	6. 最初と最後の頁 29-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎豊	4. 巻 68
2. 論文標題 Brhatkalpabhasya6364の予備的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎豊	4. 巻 24
2. 論文標題 誰が出家できるのか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ジャйна教研究』	6. 最初と最後の頁 101-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎豊	4. 巻 1
2. 論文標題 Materials for the Study on the Characteristics of Mahavira's and the Buddha's Physical Body	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Jaina Studies: Select Papers presented in the 'Jaina Studies' Section at the 16th World Sanskrit Conference Bangkok, Thailand & the 14th World Sanskrit Conference, Kyoto Japan	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 河崎豊
2. 発表標題 Drinking Alcohol and Early Jainism: With special reference to the Svetambara Jaina scriptures
3. 学会等名 The UC Riverside Jain Studies Symposium 2020: Illness, Medicine, and Healing in the Jain Tradition (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河崎豊
2. 発表標題 ジャйна教のsthitakalpaという規定をめぐって
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第七十回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河崎豊
2. 発表標題 ジャイナ教はどのような宗教か
3. 学会等名 「科学と仏教思想」2019年度第2回研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河崎豊
2. 発表標題 Haribhadra on Steya-/Caurya-Sastra
3. 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河崎豊
2. 発表標題 ジャイナ教の信仰と生活
3. 学会等名 「三宝としてのサンガ論」研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河崎豊
2. 発表標題 ジャイナ教におけるクシャトリア観の一事例
3. 学会等名 ブラフマニズムとヒンドゥイズム 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性 第6回シンポジウム
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤永 伸  (Fujinaga Shin)  (70209071)	京都光華女子大学・付置研究所・研究員    (34307)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤本 有美  (Fujimoto Yumi)		
研究協力者	名和 隆乾  (Nawa Ryuken)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International Workshop on Jaina Studies: Aspects of Jaina Studies	開催年 2018年～2018年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------